六花

新潟大学の魅力と現在（いま）を発信

新潟大学季刊広報誌［RIKKA］
2025.SPRING
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE No.52

特集

中高生向け科学人材育成の取組

～N-Step新潟／STELLAプログラム～

授業紹介 –教育の現場–
Enjoy! 学生ライフ
注目される研究報告
活躍する卒業生紹介“学びの先”
教員によるコラム“知見と生活のあいだ”
基金関係のお知らせ
Campus Information

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

Cover Photo

理学部棟前の「地球深部の散歩道」には、北海道日高山脈から採掘された上部マントルの岩石（かんらん岩）や中部地殻の岩石（トーナル岩）等、日本列島の形成を知る手がかりになるとも言われる貴重な岩石標本が展示されている。

2025.SPRING No.52

CONTENTS

03 特集 **中高生向け科学人材育成の取組** ～N-Step新潟/STELLAプログラム～

08 **授業紹介** －教育の現場－

09 Enjoy! **学生ライフ**

10 **注目される研究報告**

12 **活躍する卒業生紹介“学びの先”**

13 **教員によるコラム“知見と生活のあいだ”**

14 **基金関係のお知らせ**

16 **Campus Information**

新潟大学SNS公式アカウント

@Niigata_Univ_O

@niigata_university

@niigata.univ

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

題字
野中浩俊（のなか ひろとし）氏
新潟大学名誉教授（教育人間科学部）。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、新潟市会津八一記念館館長

特集

中高生向け科学人材育成の取組

～N-Step新潟／STELLAプログラム～

新潟大学では、「新潟ジュニアドクター育成塾」（2019年度～2023年度）の実績を元に、
2024年度から中学生向けの教育プログラム
「自然と人を愛し、共生を実現する未来の科学人材育成プログラム新潟（N-Step新潟）」を開始した。
また、同じく2024年度に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
「次世代科学技術チャレンジプログラム（STELLAプログラム）」に採択され、
「自然と人の共生に向け知の革新を創る基礎科学人材育成」と題し、
高校生を対象とした次世代科学人材育成にも取り組んでいる。
両プログラムの目的と内容、込められた想いを紹介する。

次世代科学人材を育成する2つの理数プログラム

新潟大学では、2019～2023年度の5年間、小中学生を対象とした理数系教育プログラム「新潟ジュニアドクター育成塾」を実施した。プログラムには延べ242名が参加。自然と人の共生実現に貢献する科学人材を育成してきた。その取組が高く評価され、公益財団法人中谷財団「次世代理系人材育成プログラム助成」事業として、中学生向けの理数系教育プログラム「N-Step新潟（自然と人を愛し、共生を実現する未来の科学人材育成プログラム新潟）」を2024～2028年度の5か年計画で展開している。

また同時に、高校生を対象とした「にいがた“知の革新”STELLAプログラム」も展開している。こちらは理数系学生の育成や高大連携を目指す事業で、卓越した意欲・能力を有する地域の高校生を募集・選抜し、科学技術イノベーションを牽引する次世代の科学人材を育成する。いずれもプログラムでの学びを通して、様々な分野の発展や地球的課題の解決に寄与する“大学の研究者”や“企業の開発者”の輩出に貢献するのが目的だ。両プログラムを担当する高澤栄一理学部長と、近藤貴明特任助手に、その経緯と展望を聞いた。

（右）高澤栄一 理学部長
（左）近藤貴明 理学部特任助手

「新潟大学では、これまで小中学生を対象に展開してきた『新潟ジュニアドクター育成塾』の次のステップとして、中学生に向けて『N-Step新潟』、高校生に向けて『STELLAプログラム』を実施し、中高を繋ぎ一体的に学ぶ独自の制度を構築しました。学力が飛躍的に伸びる時期に、理系分野の最先端の知識を

技術進展に対応する科学人材は社会から強く求められている

先取りして学ぶことで、さらなる成長が期待できます」（高澤理学部長）

科学技術の進展は凄まじく、そのスピードに対応する科学人材は社会から強く求められている。中高生の学びに包括的に取り組むことで、将来、大学・大学院を目指す意欲と熱意のある未来の科学人材を育成する。

自然や社会課題への思考力を中学生に身に付けさせる

中高生向けの「N-Step新潟」は、1年目のチャレンジングステージと2年目のジャンピングステージの2段階からなるプログラム体系。2024年度のチャレンジングステージは、書類審査の結果、20名が選抜された。

「チャレンジングステージのリテラシー講座では、理学・数学の学力、データを収集・分析し論理的な思考のもと結論を導く能力、科学技術を応用する能力、自然と共生するために必要な社会科学的な感覚を身に付けます。また、自然と人講座では、地域独特の文化や、自然と社会、自然と人の課題を考える思考力や発想力を鍛えることを目的にしています」（近藤特任助手）

県内の他大学や研究機関との共同実施体制も特徴だ。新潟薬科大学では果糖や人工甘味料の官能検査、新潟工科大学では国内最大級の大型風洞実験設備を訪れ、風速体験とバックヤード見学を交えることで風を科学的に学ぶ。また、石の博物館であるフォッサマグナミュージアムでは糸魚川市の海岸で採集したヒスイや岩石の鑑定を行う。集大成として受講生がそれぞれの成果を発表する。

自分の力で天体望遠鏡を組み立て、宇宙物理学への興味関心を引き出す

N-Step 新潟 受講者の声

※2024年度受講者アンケートより抜粋

受講者の声 01

脳研究所の講座をとても楽しみにしていて、実際に講座を受けいろんなことを知れて良かったです。講座のあと、もっと調べたいという気持ちになり、いろいろ調べて知識が増えました。

受講者の声 02

数学は万華鏡、化学はロウソクなど、題材はとても身近なものに関連していました。さらに、「こんなところにも数学が隠れているのか」と驚きました。身近な道具を使った実験も多かったので、家でも色々な観点から調べてみたいです。

受講者の声 03

どの講座でも、先生たちが自分の疑問に本気で向き合って下さり、楽しかったし嬉しかったです。自分が考えつかないテーマにも触れることができ、いろんな考え方ができるようになりました。また、自分と同じような分野に興味がある友達ができたのもとても嬉しかったです。

受講者の声 04

様々な分野の講座を学べた経験は、いつも通っている中学校の授業とは違った刺激的で特別な体験でした。糸魚川ジオパークに行き、大切な自然を守り続けたいと思いましたし、英語のグループワークを通じて、私の知らない国や文化がたくさんあることに気が付きました。自分にできることは何か、と考えるきっかけになったと思います。

思考力や発想力を鍛え県内の他大学や研究機関との共同実施体制も特徴

ユネスコ世界ジオパークに認定されている糸魚川市の海岸で“石の宝庫”を体感する

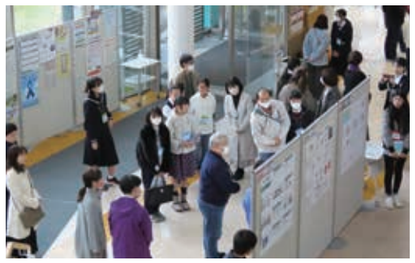
生物実験室で、生物顕微鏡を使って細胞を観察する

続く2年目のジャンピングステージは、書類審査の結果、11名が選抜された。うち4名は前年度からの継続であった。受講生は研究者とのマッチング面談を経て、指導担当教員の下、個別課題の研究活動をし、冬季に成果発表を行う。2つのステージによる、講義や実験、県内各地のフィールド訪問を通して、「知識技能」「データから意味を見出す力」「思考力・表現力」「国際感覚」「自然共生社会への共感力」の5つの力を育成する。

世界の課題解決に貢献する理学力を高校生に

高校生向けの「にいがた“知の革新”STELLAプログラム」のキーワードは、自然と人の共生だ。

「新潟は豊かな自然に囲まれる一方で災害も多く、生活インフラへ甚大な被害を及ぼした自然災害も多々あります。社会的課題も視野に入れ、自然と共生する持続的社会の実現に向けた課題や解決方法を、高校生たちに考えてもらうことが目的です。『自然現象に強い関心があり、科学者として活躍したい』『実験や物作りが好きで、大学や研究機関などで働きたい』『将来、地域や世界で活躍したい』という強い思


受講生、保護者、教員が一体となって発表会を作り上げる

多角的なプログラムで一足早く知識や技能を習得 Agencyを備えた研究者を育てる

いを持つ高校生を募集しています。大学入学前の高校生時点で、実践を踏まえた多角的なプログラムを受けることにより、一足早く科学研究の基盤となる知識や技能を習得し、Agency（主体性）の理念を備えた研究者を目指すことができるのです」（高澤理学部長）

プログラムは短期間のエントリーコース（定員１００人）、８日間のマスターコース（定員40人）、ドクターコース（定員15人）の３段階からなり、次のコースへ進む際には選抜が行われる。

最初のエントリーコースは自然科学の深淵に触れる体験コースで、科学への意欲があり理数能力の高い高校生を発掘する。宇宙物理、数学、ブラックホール撮影、アントレプレナーシップ、ＡＩ活用入門などの講座体験を通して、学びの動機づけを行う。

新潟薬科大学では高度かつ専門的な化学実験にも挑戦する

書類選抜を経た次のマスターコースでは、Agency（主体性）の涵養と課題発見力の育成が目標だ。科学、自然共生、ＡＩ・ＲＲＩ（責任ある研究とイノベーション）、グローバル展開力の各講座群での学びを通して、最先端科学の知識と技能に加え、科学と社会の関係の理解を目指し、自身の課題を見出す。

最終段階はドクターコース。課題研究計画書の内容で評価する一次選抜、面接で評価する二次選抜で受講者が決まり、その後、研究室メンターとの面談で研究室がマッチングされる。教員の指導を受けながら、発表会に向けて課題研究活動を進めていく。

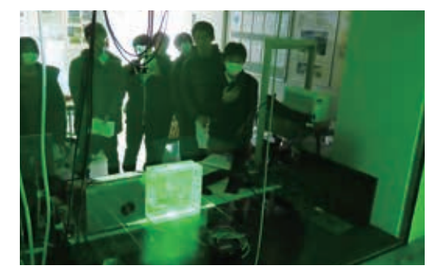
「受講生の更なる能力伸長を促すため、学会発表や論文投稿などのアウトプットを通して、Agency（主体性）の実践に繋げます。また、インド理科大学院大学での英語による研究紹介や交流も予定しています。基礎科学の高い能力に加えて、ＡＩ技術の活用力、社会的責任感、グローバル展開力を備えた研究者を育てます」（近藤特任助手）

新潟大学の世界展開力強化事業と連携し、インド・太平洋地域の留学生と交流を深める

一体的で相乗効果のある理数教育を

中学生や高校生に向けて、義務教育では学べない専門性の高い学びや、将来選択における決定的な機会を提供する上で、新潟大学が置かれる地理的な優位性は非常に大きい。越後山脈や日本海、固有種が多く生息する佐渡、日本の主要な地溝帯フォッサマグナなど特殊な自然環境が身近にあり、恵まれたフィールドを活かした研究成果は、過去の大きな自然災害からのレジリエンスに繋がっている。中高生向けの教育において、自然と人の共生を掲げている大学は全国的に見ても珍しい。10学部と個性的な研究所を有する総合大学のリソースに加え、国内外の大学や研究機関と連携したプログラムも大きな特長だ。

「N-Step&STELLAプログラムは、中学生と高校生を一体的に見て運営しています。優秀な科学人材を育てるためには長いスパンで考え、最終的に大学院への進学を目指してもらうことが大切です。新潟大学独自の取組として、それぞれ単独ではなく、異なる2つの助成金事業を一体的に運用し、理数教育の相乗効果を上げていく点が、他の大学にはない大きなアピールポイントです」（近藤特任助手）


新潟工科大学では風洞実験室を使った強風体験を行う

自然と人の共生を掲げ理系人材として自然や社会の展望を考える道筋を確立する

受講生たちは所属する高校の枠を超えて、アカデミックライティングに挑戦する

総合的な科学を課題解決力として社会に還元

社会変革を引き起こす力を育てるために重要なのは Agency（主体性）と目標設定だ。そこでは理学力に加え、研究倫理やアントレプレナー、語学力、研究開発の現場で必要なマナーや姿勢を身に付けることも求められる。それらの能力が総合的な科学を社会に還元するための課題解決力になる。N-Stepは芽生えや気付きの機会を提供し、STELLAプログラムでさらに知識や研究力の下地となる体験を積み重ねていく。

「中高の期間を通して、科学人材として自然や社会の展望を考える道筋を確立するのが目的ですが、プロセスを経て彼らが将来に選ぶ職業は必ずしも科学者でなくても良いのだと思います。ここで身に付ける知識は非常に汎用力が高いものだと考えています。社会貢献に必要な対象は時代の流れや要請に左右されますし、それに合わせてプログラムの内容も変化していくでしょう」（高澤理学部長）

２つのプログラムは連結する両輪として、新潟大学における人材育成の新たな伝統を築いていく。

教育学部英語教育専修の学生と中学生で、英会話によるグループワークに挑戦する

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

―教育の現場―

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は
教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

農学部

伊藤亮司助教
Ryoji Ito

Profile　博士（農学）。専門は米と酒の経済論。新潟県内の農家や流通業者の経営の実態について調査・分析する。

『農産物流通論』

農産物の生産から消費者に届くまでの流通システムの課題を検討する

農学部の学生には生産を支える技術論とともに、その先にある流通の視点や社会経済学を踏まえた知識と理解が求められる。2年次を対象とした『農産物流通論』では、農産物が生産されてから消費者の手に届くまでにどのような経済活動があり、流通システムが構築されているのかを学ぶ。

「国内の農業をめぐる情勢には課題が多く、しっかりと考え続けていく必要があります。講義では農産物の主要品目について、流通システムおよび制度の展開過程と現状に関する基本的な知識を提供し、その現代的な課題について考察します」と担当教員の伊藤亮司助教。

講義では流通経済の基礎理論や、日本の歴史的経緯から品目によって異なる農産物流通システムを対象にグローバルな貿易構造についても触れる。予習と復習を合わせて行う形式で、予習としてスーパーの商品価格をチェックするなどの課題も出される。

「本講義は、農学の専門的な学術分野ではありますが、あらゆる人々が消費者や購買者として関わる身近な話題でもあるというユニークな特性を持っています。生活に密着した分かりやすい形でイメージすることで、農業分野の幅広い教養への理解が深まることを期待しています」

また、講義はオンラインと対面を併用するハイブリッド形式を採用。決まったテキストを使用せず、伊藤助教がオンライン上で配布するスライド資料を教材にして進められる。常に主体的な姿勢で臨むことと、毎回の講義の際にオンラインで意見や質問を提出することが課される。

「全ての学びに通じることですが、講義では前提を疑う力を鍛えてほしい。『これは本当なのか？』と常に疑問を持ち、問題点を探っていく能力が大切です。ここでの学びが、社会や人々の幸せについて考えるきっかけに繋がればと考えています」

STUDENT'S VOICE

左：若松颯太さん（農学部2年）
右：湯田圭祐さん（農学部2年）

「主食として日本の食卓に欠かせない米について学ぶために農学部に入学しました。流通について学ぶことをきっかけに、米の値上がりも流通経路での問題に起因していることを知り、さらに関心が強くなりました」（若松）「講義では現在の農産物流通の問題点が多く取り上げられ、新しい視点を持てました。苦手意識のあった経済分野でしたが、興味をもって学べました」（湯田）

―小児医療宿泊施設―
ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた
病気と闘う子どもと、その家族が一緒にいられますように。
詳細はこちら
ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。
温かいご支援をよろしくお願いいたします。
お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。

⬆部員は20人。週4～5日のペースで第二体育館のAフロアーで活動している。

新潟大学バレーボール部

活動全般を学生で運営
チーム一丸で目標達成を目指す

昨年度は信越大学バレーボール選手権大会で春季3位、秋季1位の成績を収めた。目下の目標は強豪私立大学も参加する春季北信越大学バレーボール選手権大会での1部リーグ昇格とインカレへの出場だ。「真剣にバレーボールに打ち込める環境が整っていると思います。個人の技術を高めることはもちろん、チーム全体で一つの目標に向かって試行錯誤しています」と部長の山﨑成さん。目標を達成した時の喜びは何ものにも代えがたく、週4～5日のペースで真剣に練習を重ねているからこそだという。「絆が強まり、卒業生との交流や部員同士で卒業後に集まる機会もあります。大学の部活は高校とは異なり練習の参加頻度や態度などはその人次第。学業や就職活動との両立に苦労する部分もありますが、部活動に真剣に取り組むことで自主性やセルフマネージメント能力も高められます」

➡監督やコーチはおらず、全て学生でチームを運営。その年のメンバーやチームに合わせて戦術や練習メニューを柔軟に変えている。

部長
山﨑成さん
（法学部3年）

新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの
情報をコンパクトにまとめ、
随時お届けします！
ぜひダウンロードください。

App Store　Google Play

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究題目

アクターネットワーク理論による地域社会学研究

地域の課題や取組に対する社会調査から共生の意識を生み出しつながりの創出に寄与する

伊藤准教授の著書。アクターネットワーク理論について平易に解説し、関連する事例研究を紹介している

豊かな日常生活を送る上で不可欠な地域のつながりや助け合い。災害をはじめとする有事の際はもちろん、教育や福祉などあらゆる分野で重要な役割を果たしているが、それらはそもそもどのように形成されるのか。地域社会学を専門にする伊藤嘉高准教授は、「つながりは課題を共有することで生まれ、課題解決に向けて動くなかで変化する」という考えの下、フィールドワークを中心にアプローチする。

「地域のつながりは、人が集まれば自然にできるわけではありません。生活における共通の事象を『議論を呼ぶ課題』とすることで人びとのコミュニケーションが生まれます。それによって、当事者の考えや意識、さらには課題そのものも変化することで、解決策も生まれます。格差や孤立が広がり、つながりが希薄になり助け合いが難しくなっている中、防災や防犯、医療、福祉など地域の共通の課題を媒介とした地域社会の形成に貢献する調査研究を行っています」

研究では、人や物が結びつくことで物事が変わっていく力学に目を向ける「アクターネットワーク理論」に基づき、主に聞き取り調査や質問紙調査を実施。多様な立場の意見をつなぐことで、問題を捉え直し、問題解決に向けた働きかけを行っている。

「ある地域の病院再編に関する問題では、地域住民による混乱や反対運動が起こっている背景について調査しました。病院関係者や自治体職員、住民団体などに聞き取りを行った結果、病院再編が必要であることが当然視され、再編を媒介にして住民が変容していくプロセスが生まれなかったことで、地域間の分断や、医療者と住民の分断が生まれている実態を明らかにしました。再編をめぐる議論を開かれたものにすることで、住民と医療者がつながり、支え合う文化を生み出していくことが重要だと考えています」

近年は、より幅広い学問的視点で各地の地域社会を見ていこうと探究を続ける。

「現在はサービス付き高齢者向け住宅に関する実態調査や、新潟大学医学部との共同研究を進めています。『これが当たり前』『これが正解』と研究者が一方的に示すのではなく、より多くの人や物がつながれるように、むしろ当たり前を作り直していくきっかけを生み出すことこそが、私の社会学が目指すものです。今後も幅広い分野にアプローチをしていき、より良い地域社会を当事者たち自身が築いていけるようサポートをしてきたいです」

人文学部
伊藤嘉高 准教授

| Profile | 博士（文学）。専門は地域社会学、医療社会学、科学社会学。社会学の視点から、さまざまな地域の内と外を社会的につなぐことに資する調査研究に取り組む。著書に『移動する地域社会学　自治・共生・アクターネットワーク理論』など。

研究題目

多体問題と有効場の理論 2兆度のプラズマから絶対零度の量子液体まで

「有効場の理論」を用いて広い領域で理論物理学を研究する

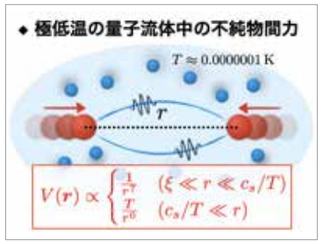
物質の構造や性質を理論的に研究する理論物理学は、「原子物理」「原子核物理」「素粒子物理」など、それぞれの専門領域内で取り組む研究者が多いという。本郷優准教授は、そのような従来の枠にとらわれず、「有効場の理論」と呼ばれる理論的枠組みを用いて、理論物理学の広い領域をカバーする研究を進めている。

「『有効場の理論』は理論物理学の中でも、特に場の量子論と呼ばれる研究分野において使われる用語ですが、現代物理学すべての分野の基礎を支える基本的な世界観を与えていると思います。具体的には、短距離で起こる現象と長距離で起こる現象の『スケール』が分かれていることに注目することで、多様な物理現象に適用可能な理論的枠組みを与えます。わたしは、この有効場の理論という考え方に基づいて、2兆度のプラズマからほぼ絶対零度の量子液体のふるまいまで、分野にとらわれない研究をこれまで行ってきました」

2022年にはドイツ・ハイデンベルク大学の藤井啓資研究員・Tilman Enss教授の国際共同研究グループと、極低温の量子流体中に浮かべられた粒子間に、長距離ではファンデルワールス力と呼ばれる分子間力と同じ力が働くことを理論計算から明らかにした。

「レーザー技術によって絶対零度近くまで冷却された原子集団は、量子状態を高精度に制御可能な系として近年注目されており、ミクロな世界における『力』を調べる上でも格好の舞台となっています。本研究では、極低温で実現する原子超流動体中の不純物粒子に、量子揺らぎに起因した普遍的な長距離力が作用することが新たに分かりました。この新たに見出した力からどのような特徴的な現象・構造が生まれるかなど、興味深い課題は多くあります」

さらに、超流動体中の不純物は固体中の電子や高温プラズマ中の重い粒子と類似した側面も持っているため、本研究で得られた力の理論と極低温の原子気体の実験結果とを組み合わせていくことで他分野における物理系の理解に貢献する可能性も期待できる。



極低温の原子気体（青色の粒子）の超流動体中に浮かべられた不純物粒子（赤色の粒子）の間に働く長距離力の模式図。2つの超流動フォノン（超流動体中の音波）を同時に交換することで分子間力に似た引力が生じる。

理学部
本郷 優 准教授

| Profile | 博士（理学）。専門は素粒子・原子核理論、非平衡物理学。流体力学と、最先端の原子論と考えられる基本的な微視的な理論である場の量子論との間のギャップを埋めるために研究を進める。

特別なあなたに 特別な1枚
「新潟大学カード」 入会受付中！

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き（最高3,000万円） 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
（受付時間 平日 10：00～15：00）
E-mail：n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

志望業界，企業で働く先輩に質問したい！
会社の中の様子について知りたい！
新潟大学キャリア・就職支援オフィス
CAN システム
卒業生と新潟大学生をつなぐ，キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム
CAN システムとは Web 上のシステムを介して，学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！ 新潟大学 CAN システム 検索 URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp /

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

活躍する卒業生紹介

“学びの先”

新潟大学で“真の強さ”を学び、社会に羽ばたいた16万人を超える卒業生。社会で活躍する卒業生をご紹介します。

■一般社団法人Smile Story代表理事 髙橋智恵（たかはし ともえ）さん

Profile.
福島県南会津町（旧田島町）出身。1977年生まれ。1999年3月新潟大学人文学部卒業。福島県で高等学校の英語教員や長岡工業高等専門学校での非常勤講師等を経て2021年設立の一般社団法人SmileStoryで副理事、2025年2月より同代表理事。

まちぐるみのまちづくりの場を創出する

本学五十嵐キャンパスのすぐ近く、海岸に程近い内野町に拠点を構える一般社団法人Smile Storyは、海岸清掃や子ども食堂の運営、フリースクールに通う子どもたちへの教育プログラムの提供など、数多くの活動を行う。このSmile Storyの代表理事を務めるのが髙橋智恵さんだ。

2020年、コロナ禍で子どもたちの活動や遊びも制限されている中、コンセプトの子ども食堂をスタート。月1回ほどのペースで地域のイベントなどの際、求められたら開催した。

また、子ども食堂を続けるうち、新潟大学の学生が手伝いを買って出て、現在では学生主体で運営するまでになった。

さらに子ども食堂とは別に、誰もが利用できる地域食堂と地域の交流と家計負担の軽減に取り組むことを目的とした循環

“ロスパン”をリベイクし子どもたちに提供

夏休み地引網体験

『次世代を生きる子どもたちの笑顔のために』

PTAの仲間たちとみんなが笑顔になれることをやってみようという想いから始まった海岸清掃がSmile Story設立のきっかけ。

最初はごく身近な人たち十数人で始めた海岸清掃だが、その後も毎月実施することで参加者は増加。多様なつながりが生まれ、活動の幅は広がっていく。

さらにそこでの出会いから2020年の11月には拠点を持たない「移動型」がスペースとして拠点を構えるなど人のつながりの輪はさらに広がりを見せる。

その他にも地引網イベントの企画、スポGOMIワールドカップ2023での世界第2位など、目まぐるしいほどのスピード感で様々な場を展開してきたSmile Story。活動には一見まとまりがないように見えるが髙橋さんには『次世代を生きる子どもたちの笑顔のため』という一貫した目的がある。

髙橋さんは学生時代、どのような時間を過ごしたのか。

「フィールドホッケーに打ち込んだ4年間でした。4年次のインカレにも出場しました。学業では社会学分野でメディア論を専攻していました。でも、当時は地域のことは全然見えていませんでした。今の学生と関わる中でみんな地域に関心を持っていることはすごいと思いますし、だからこそ、学生たちにもチャレンジさせてあげたいと思っています」

最後に今後の展望を伺うと意外な答えが返ってきた。

「地域をこうしたいというビジョンはあえて描いていません。地域を作るのは地域住民なので。内野は商店街や漁港、田んぼまである多様な魅力が凝縮された町です。いろいろな人がいろいろな活動をしていた結果、まちづくりになっているというのがいいと考えています」

Information

■一般社団法人 Smile Story 公式インスタグラム @smilestory.niigata

新潟大学ネーミングライツ事業パートナー募集中

新潟大学では、施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値を向上させることを目的としたネーミングライツ事業の実施にご賛同いただける事業者等を募集しています。

詳細はこちら

お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム

“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第34回は医学部保健学科です。

第34回●医学部保健学科「意外と私たちの近くにいるマダニ～マダニの拡がりとマダニ媒介性感染症」

飼い犬と散歩に出る方、農作業に従事されている方は「マダニ」に遭遇したことがあるかもしれません。マダニは私たちの生活圏内で実際に見る機会がある「外部寄生虫」の一つです。

2013年に「重症熱性血小板減少症候群」の日本でのヒト感染が初めて報告されました。これ以降数年、いろいろなメディアで「殺人マダニ」としてマダニが取り上げられました。しかし、「殺人マダニ」という表現には語弊があり、実際「殺人」の要因となるのは、この場合はウイルスになります。マダニの刺咬によってヒトの体内にSFTS（SEVERE FEVER WITH THROMBOCYTOPENIA SYNDROME）ウイルスが侵入し、ヒトの中でウイルスが増えることで感染が成立します。マダニはいわゆる運び屋としての役割を果たしているのです。マダニが媒介する感染症は多く、代表的なものとしては、リケッチアを病原体とする日本紅斑熱、ボレリアを病原体とするライム病などが挙げられます。

（図1）マダニの生涯

マダニは卵から孵化して幼虫となり、その時期に1度吸血、その後、脱皮し若虫へ成長し、この時期に2回目の吸血を行います。その後、再度脱皮をし、成虫になり、吸血を行います（図1）。1匹のマダニがその生涯において3度異なる宿主を吸血するため、「人獣共通感染症」を拡げる可能性もあり、感染症媒介者として重要な意義を持っていることになります。

マダニは自身では広範囲に動くことはなく、宿主を吸血しているその宿主とともに動き、生息地を拡げることになります。よって吸血する宿主の種類次第で、マダニの範囲が変わります。感染症媒介マダニで考えると、重要な吸血宿主はクマ、イノシシ、シカなどが挙げられます。マダニは種類と成長段階によって吸血する宿主の好みが変わり、病原体も同様にその体内で定着増殖できるマダニ種が異なります。いわゆる、えり好み（種特異性）というものがあるのです。その地域に分布している野生動物が変化していくことは、そこの地域にいるマダニ種も変化し、さらに警戒すべきマダニ媒介性感染症も変化することになります。また、地球温暖化や土地の使用状況の変化により、たった数年の間でも野生動物、そしてマダニの分布状況が刻々と変わってきていることが分かっています。

マダニに刺された際に、ご自身で抜去される方もいますが、その際にマダニの口先の部分が体内に残り、炎症が長く続く、病原体が体に拡がりやすいという報告もあります。すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、マダニに刺されたら、ご自身でとらずに皮膚科を受診していただくことをお勧めします。また、マダニがいそうな草むらや山などへ行かれる際には、できるだけ肌の露出を少なくし、虫よけスプレーを使用することで、マダニ刺咬の機会を減らすことができます。

サトウ恵
大学院保健学研究科准教授・研究統括機構研究教授

寄生虫学（特に蠕虫＝多細胞寄生虫＝ニョロニョロしている寄生虫）を対象とした研究を主に東南アジア諸国で行っている。大学所在地の課題解決として新潟でマダニの研究も実施している。

75th Anniversary NIIGATA UNIVERSITY 1949-2024 新たな挑戦 大きな貢献

創立 75 周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

詳細はこちら

お問い合わせ　創立 75 周年記念事業準備室　TEL：025-262-5626　E-mail：niigata_univ.75th@adm.niigata-u.ac.jp

News Topics

文部科学省令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました

本学は、文部科学省の令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。

同事業は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした経営戦略の下、他大学との効果的な連携を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的としています。

本学は、このたびの同事業採択のほか、令和4年度に実施された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」にも採択されており、両事業を中心とした様々な取組の相乗効果により、地域や社会課題の解決に貢献する地域中核研究大学を目指します。

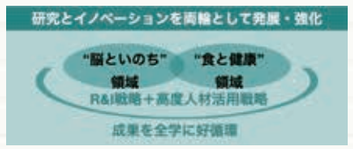
本学の構想概要

■構想名

「未来社会の“脳といのち”と“食と健康”のイノベーションを創出する研究拠点」

構想概要

本事業では、本学が掲げる将来ビジョン2030を発展させ、「未来社会の“脳といのち”と“食と健康”のイノベーションを創出する研究拠点」を目指します。卓越性と特色を有する“脳といのち”と“食と健康”領域を重点領域に設定して、AI・数理情報、ELSI領域との融合、ひとバイオリソースバンクの強化、国内外大学との連携活用、および高度専門人材・事務改革による組織マネジメント強化で、地域が頼りにし世界に貢献する研究成果の創出と社会実装を行います。また、これらの達成に向けて、高度人材活用戦略として、若手研究者・大学院生が活躍できる環境整備や、本学が独自で進めるUniversity Administrator（UA）制度の強化・拡大により、これまで大学経営や運営を教育研究との兼務で担ってきた研究者の負担を軽減し、独創的な活動のための研究時間を拡大するなど、高度専門人材が教員、事務職員と連動して活躍することで、教学と経営の分離協働により各教職員が能力を活かせる魅力的な職場を構築します。これらの取組を戦略的に推進することで、研究とイノベーションの両輪で大学ビジョン実現に向けて発展していきます。



ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生及び障がいのある学生に対して、修学支援事業を行います。
「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿（R6.12～R7.2寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈個人〉浅野 崇　池田 大祐　石田 武裕　大貫 俊二　岡村 光展　佐藤 純一　田子 悟史　保坂 清　星 祥彦　盛崎 眞治　匿名希望4名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。
令和4年1月に創設し、「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿（R6.12～R7.2寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈個人〉石田 武裕　坂口 愛実　湯田 千秋　湯田 求　匿名希望4名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿（R6.12～R7.2寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈個人〉青木 英二　味岡 洋一　新川 恒夫　安藤 勝利　五十嵐 整　石田 武裕　石塚 卓　伊藤 勝也　伊藤 良樹
伊野 義博　岩田 喜美枝　上杉 圭吾　遠藤 紀美子　大橋 修　大橋 伸夫　大桃 祐介　岡村 光展　梶原 謙一
金子 淳一　木曽 典一　木村 成吾　小海 哲　小久保 吉恭　小関 賢　後藤 郁　後藤 真紀子　小林 和雄
斎藤 淳司　斎藤 隆　斎藤 宏之　酒井 邦夫　坂口 愛実　坂口 ユカリ　相良 駿太　佐々木 晋　佐藤 純一
佐藤 均　佐藤 正道　清水 美友紀　鈴木 輝雄　鈴木 正巳　住田 孝二　高木 秋夫　高木 研二　高橋 智
高橋 直子　滝澤 哲也　竹田 泰広　塚田 正幸　寺田 剛　長倉 成憲　中島 伸子　成田 一衛　野口 公聖
野口 義幸　野坂 孝雄　長谷川 庄栄　長谷川 直美　廣田 巨樹　保坂 清　本間 一正　宮薗 衛　武藤 邦子
森 勇造　山田 浩之　横野 知江　横山 武夫　渡邊 景亮　割田 悦子　匿名希望63名

〈団体〉あがの市民病院売店　旦飯野神社　株式会社Alumnote　株式会社ウィザップ　一般財団法人協和会　株式会社熊谷組　株式会社コーシン
サントリービバレッジソリューション株式会社　JA新潟厚生連柏崎総合医療センター売店　JA新潟厚生連けいなん総合病院
JA新潟厚生連上越総合病院　JA新潟厚生連新潟医療センター　医療法人至誠会　胎内電建工業株式会社　株式会社塚田牛乳
新潟医療生活協同組合木戸病院　新潟県福祉保健部健康づくり支援課成人保健係　新潟県立新潟高等学校　新潟県労働金庫本店営業部推進員会
新潟大学附属新潟中学校　新潟大学生活協同組合　新潟大学全学同窓会　西興産株式会社　株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟
ピアノ教室リエート　東日本電信電話株式会社新潟支店　医療法人社団ＩＵＶＯ山崎歯科医院　株式会社和光ベンディング　匿名希望5団体

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。
https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/

会員名簿はこちら

トピックス

■トピックス1

新潟県けんこう財団様からの寄附金受贈式を行いました

新潟県けんこう財団様からの寄附金受贈式を行いました。受贈式では、新潟県けんこう財団 理事長 入澤 孝昌氏より「未来を担う子どもたちの病気の治療や研究のために役立てて欲しい」との想いを込めて牛木学長に目録が贈呈されました。
頂いたご寄附は本学の小児がんの治療・研究、ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた運営支援のために大切に活用させていただきます。
また、新潟県けんこう財団様からは、新潟大学サポーター倶楽部会員としても本学への支援を賜っております。

■トピックス2

学生寄宿舎運営のための修学支援事業

新潟大学では、学生に安定した生活の場を提供し、修学上の便宜を図ることを目的として、外国人留学生と日本人学生が共同生活を営む寄宿舎（以下、学生寄宿舎）を設置しています。
その学生寄宿舎の修繕・改修や、備品の購入については、これまでも本学予算において実施し、入居学生への経済的負担がないよう努めてまいりました。
しかしながら、限りある予算の中で、すべての修繕等を実施することは容易ではなく、優先度の高いものから実施するなどしておりますが、対応すべき事項は依然として山積しております。
そこで、本学では、「新潟大学まなび応援基金」の目的の１つに学生寄宿舎運営のための支援事業を新たに設け、本基金を学生寄宿舎の施設整備等に活用させていただくことで、入居学生の経済的負担を抑えつつ、より快適で安定した生活の場を提供することを目指します。
皆さまには、このような趣旨をご理解いただき、「新潟大学まなび応援基金」への温かいご支援を何卒よろしくお願いいたします。

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp HP https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

『にいがた2km「おいしさDX」産学官共創プロジェクト』が内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に採択されました

2024年度の内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」の本申請枠において、新潟市を中心とする『にいがた2km「おいしさDX」産学官共創プロジェクト」が採択され、本学はプロジェクトの中核機関として参画します。

同プロジェクトは、にいがた2kmを拠点に、飲食業や食品製造業をはじめとした食関連産業の高付加価値化と、食のデータを活用できる人材の輩出を目指す先進的な取組です。

新潟市・新潟大学・株式会社メビウスを中心とする産学官の協働体制で本事業を推進してまいります。

新潟大学グローバルフェス2025を開催しました

本学では、国籍・人種等を問わない新潟大学の学生・教職員の交流を図り、親睦を深めることを目的として、2月7日に「新潟大学グローバルフェス2025」を開催しました。2018年度まで行われていた外国人留学生と教職員、地域の皆様との親睦会「国際交流のゆうべ」が、新型ウイルスの影響で中止となって以来、全学の留学生を対象とした親睦会としては6年ぶりの開催となりました。

第一学生食堂にて行われたこの会には、大雪にも関わらず、外国人留学生・研究者、日本人学生、教職員あわせて102名が参加しました。牛木学長の挨拶に続き、染矢グローバル推進担当理事による乾杯の発声により開会。テーブルには、寿司やサンドイッチなどの軽食に加え、五泉里芋の芋煮、笹団子など新潟ならではの料理が並び、留学生や日本人学生、教職員が交流の輪を広げていました。また、大学のバナーを背景に写真が撮れるコーナーでは、多くの留学生が牛木学長と並んでの写真撮影に興じていました。

歓談を挟み、留学生によるパフォーマンスの時間では、飛び入りも含めた留学生や外国人教員が、日本語や英語による歌を次々に披露し、周りからは歓声が上がっていました。国籍を問わない多文化交流の場であるグローバルフェスは、盛況のうちに幕を閉じました。

2026年4月に大学院の再編を計画しています

本学は、従来の専門知識のみでは解決できない複雑化する社会課題に対応できる人材を養成するため、2026年4月、既存の研究科を統合し、次の大学院の組織改革を計画しています。

※本計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会に設置申請中です。計画は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。

改革1 ＜人文社会系・自然科学系研究科の統合＞

「現代社会文化研究科」と「自然科学研究科」を統合し、新たに「総合学術研究科（仮称）」を設置します。

人文社会・自然科学系における大学院教育を「専門知識修得偏重」から、顕在化する「複合的課題」を解決できる、すなわち「総合知を創生する場で活躍できる人材育成」の場へと転換します。

改革2 ＜医学・歯学・保健学系研究科の統合＞

「医歯学総合研究科」と「保健学研究科」を統合し、新たに「医歯保健学研究科（仮称）」を設置します。

医歯学・保健学系の高度専門職業人養成に係る大学院教育においては、多職種連携を見据え、医学、歯学、保健学という従来の領域を超えた学びの場を提供します。

新潟大学 季刊広報誌 六花
RIKKA 2025.SPRING No.52
発行／2025（令和7）年6月
編集／新潟大学広報室
（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）
電話／025-262-7000
Home Page https://www.niigata-u.ac.jp/
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。